

Experiential Learning

日本一の里山から 自然や人との共生を学ぶ

里山体験学習で学ぶ黒川の生物と人の生き方
子どもたちに共生の在り方を伝える



黒川公民館 館長 後藤弘行

見て触れて全身で学ぶ

市内の小学4年生が行う里山体験学習では、黒川公民館や妙見の森などを訪れ、地元の人々の話や自然散策などを通して、黒川の自然や暮らしを学びます。

「幼稚園・保育所から高校生まで継続して行われる兵庫県の体験学習に、川西市が独自に追加している取り組みです。私は子どもたちに、里山の自然や暮らしなどについて話をしています」

こう話すのは黒川公民館の後藤弘行館長。同学習の目的には、いじめなどの問題行動の防止や、優しさと思いやりの気持ちの醸成、豊かな人間関係の構築などがあります。「人は幼いほど、身の回りや具体的なことから見て触れて学びます。そして、成長するほど、自分から遠いことや抽象的なことを、人や本から間接的に学ぶといえます。体験学習は段階を経て学べるようになっていきます。学校・園内から始まり、周辺地域や自然、市内の里山、県内の山川海に学びの場を移していくんです」

黒川の自然と文化が先生

後藤館長は、伝えたいことを次のように話します。

「昆虫の観察や自然散策では、生物の多様性にふれることができます。多種多様な生物がいて初めて豊かな生態系が成り立つことを全身で感じてもらいたいですね。そこから、人間も同じで、いろいろな人がいて豊かな社会になることが伝わればと思います」

里山の自然と人の関係は人同士にも通じると後藤館長。「炭焼きと台場クヌギ見学では、自然と人の共生を学びます。炭焼き用のクヌギである台場クヌギは、数年おきに

枝を伐採しますが、伐採の前後で植物種数が51種から123種に増えたという調査があります。人を豊かにするための営みが、自然も豊かにしているんです。双方により環境をつくって共生する関係は、人と人との関係にも通じる場所がありますね」

自身の経験から、同学習が将来にも生きると後藤館長は話します。

「私は昔の体験や思い出が、後になって深い学びにつながったことが何度もあります。今理解できなくても、体験を重ね、成長した時に理解するきっかけになればうれしいですね」



旬のいちじくマリネ

爽やかな酸味と甘みで夏を乗り切る

おとな子どもも
食と育つ 保健センター
☎(758)4721

レシピ 保健センター栄養士

- 材料 4人分
イチジク 2個
ズッキーニ 1/3本
パプリカ(黄) 1/4個
- 【調味料】
オリーブオイル 小さじ2
酢 大さじ1
レモン果汁 小さじ1
塩 少々

熱量(おとな1人分): 36kcal、塩分: 0.1g

- 作り方
①調味料を混ぜる。
②イチジクは皮をむき、くし形に切る。
③ズッキーニはヘタを取り、半月切りにする。
④パプリカは種を取り、食べやすい大きさに切る。
⑤フライパンでズッキーニとパプリカを炒める。
⑥①に、熱いうちに⑤を加え、粗熱をとる。
⑦⑥に②を加えて、軽くあえ、冷蔵庫で冷やす。

人権啓発シリーズ
生きる 人権推進課
☎(740)1150

いじめという貧相な遊び

学校に見える「学び」と見えない「学び」
いじめの問題の根はそこにある

人は「生まれるのもひとり、死ぬのもひとり」という「ひとり性」を常に身にまといながら、一方で、人は常に他者と共に生きるしかないし、そうして他者と共に生きることこそ喜びを感じる生き物です。この「共同性」もまた人間の本性です。いじめの現象は、そうした人の両義性に根拠を持っているという話を前回したのですが、もちろん、いじめの心性はどこからどう見ても貧相なものです。どうして人がそんな貧相な心性にはまり込んでしまうのかと考えたとき、問題となるのは、いじめが生じるその場の質です。

ある高校で、1人のおとなしい男の子がやんちゃでにぎやかな同級生にからかわれ、そのいじめにひどく苦しんで自殺未遂にまで追い込まれた事件がありました。同級生たちがその子に関わろうとしてちょっかいをかけたとき、彼はそれを受け流すことができず、黙りこくってしまったことで、周囲が集団でいらだって意地悪をし始め、お弁当にこっそり砂を入れたり、上靴を隠したり、教科書にいたずら書きをしたりして、嫌がる彼の様子を見ては笑いふざけていたというのです。なんと貧相な遊びです。

小学生ならともかく、もうおとなの一手前まで来ている青年たちが、その貧相な遊びに興じていたというのですから、実は恐ろしい話です。問題は、この青年たちにとって学校がどのような場としてあったかということです。もちろん、それは表向き「学びの場」です。しかし、そこでの「学び」が彼らにとってどのような意味のものとしてあったのか。そここそ問題の根はあったはずなんです。

(前川西市子どもの人権オンブズパーソン 浜田寿美男)

消費生活センターだより 消費生活センター
☎(740)1167

話題の仮想通貨に便乗？

情報商材のトラブル
簡単にもうかる話に気を付けて

事例 スマートフォンで「仮想通貨で必ず5億円もうかる方法を教えます」という広告を見つけた。興味を持ったので、サイトに自分の電話番号やメールアドレスを登録した。数日後、事業者から電話があり「おめでとうございます。限定30人の当選者選ばれました。20万円を払って会員になれば、30万円分の仮想通貨をプレゼントします」と言われた。20万円を払っても30万円分の仮想通貨をもらえて、5億円もうかる方法を教えてもらえるなら、こんなにいい話はないと思ってクレジットカードで支払った。すぐに「5億円もうかる方法」がメールで届き、ダウンロードしたが、仮想通貨の種類の説明だけで、もうけ方についてはほとんど書いていなかった。その後、事業者とは連絡が取れなくなって、30万円分の仮想通貨ももらえなかった。20万円を返してほしい。(50歳代 男性)

インターネットを通じて、お金のもうけ方やサイドビジネスなどさまざまな情報が販売されています。これを情報商材といいます。事例の「仮想通貨で必ず5億円もうかる方法」が情報商材に当たります。情報の内容は購入してみないと分かりません。最近、インターネットで「誰でも仮想通貨で億万長者」「初心者で仮想通貨でもうける方法」というような広告をよく見かけます。仮想通貨という話題性のある言葉にひかれ、仕組みがよく分からないまま支払ったが、もうからない、連絡が取れないなどのトラブルが増えています。お金を払った後で取り戻すことは困難な場合がほとんどです。簡単にもうかる方法はありません。注意しましょう。